

## 千燈岳～文殊山 with 国東ロングトレイル

【報告者】 T橋

【日時】 2019年11月30日 【天候】 晴れときどき曇り

【参加者】 T橋

### 《コースタイム》

不動茶屋 P 810－五辻不動－千燈岳 910－熊ヶ岳 955－水谷峠－文殊山 1100－文殊仙寺 1150  
－岩戸寺 1345－不動茶屋－旧千燈寺－不動茶屋 P 1530

### 《 報 告 》

国東半島のロングトレイルを調べてみると、思いのほか舗装路歩きで山をスルーすることが多かった。A 3に印刷した地図を眺めながら、どうにか山を絡めて周回ルートを作れないか。紅葉もまだ見られるかも、写真でよく見るお寺や仁王像も見てみたい…。想像は膨らむが、国東初心者ではあるし、まずはメジャーどころから行ってみた。

アプローチの車窓からもあちこちに岩峰が見えていたが、歩き始めてすぐの五辻不動も立派な岩場でここからの眺めは素晴らしかった。姫島（ここの山にも行ってみたい）から海の向こうの四国の山々まで望め、日の出を撮りにきた数人とすれ違いが確かに絶好の地点だ。

千燈岳までは分かりやすい尾根歩き。ちなみに「国東半島峯道ロングトレイル」と「国東半島一周トレッキングルート」という微妙に似通ったルート設定があり、ここはそのどちらも重なるルート。ただ道標は全体的にそう多くなく、地図は必須、公式マップなどだけでは歩けないのではと思う。急登だが山頂は平坦な千燈岳からは反対側斜面を下り、荒れた林道をつないで次のピーク熊ヶ岳へ。ここも尾根に乗れば素直なルート。ただし下山時は気持ちよく尾根を下り過ぎてあわてて戻ったり。

峠からは再びロングトレイルへ。葛原集落跡から文殊山へ登るルートは「K-2 オプション」の標識あり。たまたまなのか国東の山の特徴なのか、今日の三山はいずれもご飯を山盛りにしたような形で、もれなく急登、急下りがついてくる。文殊山も特に下りがずるずるで歩きにくい。

参拝客でにぎわう文殊仙寺をゆっくり見回りつつ次のルートの起点を探すが、これが見当たらない。山と違って、観光客の前でいきなりガサガサとヤブに突っ込んで探すわけにもいかず、まさか下りてから迷うとは思わなかった。結局これは違うよなと思っていたお墓へのルートが正解で、入口にはそれと示す標識などなかった（50mくらい奥にあった）。



国東ロングトレイルには、古くからの参詣道はもちろん林道や作業道も設定されていて、その整備状況などは場所によって随分と差があるように感じた。分岐の道標なども完備されているわけでもなく、山を下りればあとはルートをたどればいいでしょ的に甘く見ていたことを反省。

岩戸寺からも迷いながらヨレヨレと五辻不動の岩尾根に戻ってくる。これが芸術かどうか良さが全く分からない男性の銅像がある。八つ当たりしたい衝動を抱えながら眺める景色は、少し夕方色に染まって見えた。

いいこともある。時間が遅くなってきたので、有名な旧千燈寺跡の紅葉に包まれた仁王像をひとり占めできた。建物が跡形なくなってもこうして残り、何かを守り続けている。どこか国東を象徴するようなシーンだと思った。

